

麦



WEB 掲載用 抜粋版

2012 年 10 月 23 日第 120 号

埼玉親の会「麦」発行

E-mail ldmugi@hotmail.com

http://ld-mugi.sakura.ne.jp/

7 月全体例会(就労グループ担当)

「親亡き後、福祉型信託 ～民事信託という財産管理支援～」

講師：埼玉司法書士会所属こすもす司法書士法人 司法書士 山崎芳乃 先生

7 月 14 日(土) 浦和コミュニティセンター第 14 集会室 参加者 42 名(会員 21 名、一般 21 名)

「福祉型信託」初めて聞く言葉でした。民事信託とは、親族または他人などを信用して財産を託し、希望する内容(目的)に沿って管理や処分、その他必要な行為をしてもらうことです。民事信託の中で特に高齢者や障がい者の財産管理のための信託を「福祉型信託」と呼びます。信託財産は金銭的価値に見積もることができる財産のことで債務は含まれません。受託者(親が自分の財産を託す人)には、身内になる場合が多いそうです。親が自分の亡き後の障がい等を持った子どもの生活の不安や年老いて自分に判断能力などが劣ってきた時のことを考えて、自分の子どもに財産の管理をして欲しいと託す(信託)のです。よく耳にする「成年後見制度」は物事を判断する能力が十分でない人の権利等を成年後見人が法律的に支援する制度です。「福祉型信託」は委任者と受託者つまり親が子ども等と契約によって、自分の希望に沿って財産を管理処分することができる制度です。

子どもの年齢が上がるにつれ親も年を取っていきます。私たちがいなくなったらこの子はどのように暮らしていくのだろうか。兄弟姉妹には迷惑をかけたくない。兄弟姉妹に遺言でも書いて、残せるお金で生活のサポートをしてもらって、この子が亡くなった後は、面倒を見てくれた兄弟姉妹で整理してもらおうかなどと話したことがあります。まさにそれが福祉型信託になるのですね。その間に第三者の司法書士のような方が入ってくださり相談にのり、書面に残す。そうすれば親としても安心だし、また兄弟姉妹たちも理解し合いよりよい支援につながっていくと思います。私たちがいなくなっても、兄弟姉妹の家族とも良い関係を保ち、いつまでも仲良く過ごしてほしい・・・親の願いです。

記事(K, T)

「民事信託」制度に関する説明を伺いました。私たち障害児をもつ親にとって、親亡き後の子供の事が一番の気がかりだと思います。今回、初めて「民事信託、福祉信託」という制度を知り、成年後見制度の他にも将来の選択肢が増え、大変参考になりました。今回の講座は将来を考えるきっかけをいただき、大変感謝しております。今後も継続的にこのような勉強会を実施していただけると助かります。

記事(YH)

役員活動報告

埼玉県知事あて要望書への口頭回答

7/6(金)に埼玉県知事あてに提出した25年度予算要望書について9/10(月)に懇談会があり、一部口頭で回答をいただきました。教育から、適切な教育支援の提供、学校職員等への理解啓発の推進、就労から、雇用の促進と就労定着のための支援、障害福祉から、県主催の講演会等への講師について、医療から、医療機関の充実について、それぞれ回答をいただいた後、質問やお願いをいたしました。その他の項目は後日、文書で担当課から回答をいただきますので、併せて内容報告いたします。当日はお忙しい中、丁寧な回答を下さった、県立学校人事課、特別支援教育課、保健体育課、就業支援課、福祉政策課の皆様方、ありがとうございました。

記事(K)

埼玉県議会公明党議員との意見交換会

9/20(木)埼玉県議会に於いて、埼玉県議会公明党議員団(5名)との意見交換会が開催され、麦から役員3名が出席しました。団長の西山淳次議員の挨拶の後、麦より提出した要望書に沿って意見交換がされました。特に以下3点について友好的に話し合われました。

- ①福祉一当事者団体(JDD ネット)の推薦する講師による研修の充実
- ②医療一児童期から成人期まで継続して受診できる医療機関及び一貫したサポート体制の整備
- ③教育一LD等、多様なニーズを持つ子のための専門性の高い学習技法の情報収集と普及

議員の皆様からは「今後とも県執行部に働きかけます」と、たいへん前向きな回答を頂きました。埼玉県議会公明党議員の皆様、お忙しい中、誠にありがとうございました。 記事(K)

第3回発達障害者支援体制整備検討委員会「成人期・就労部会」

8/10(金) 第3回埼玉県発達障害者支援体制整備検討委員会「成人期・就労部会」が行われました。関係団体として、(社)埼玉県手をつなぐ育成会「朝霞手をつなぐ育成会」、埼玉県自閉症協会会長、埼玉親の会「麦」役員が参加しました。福祉政策課発達障害担当から今年度の発達障害関連事業の説明があり、啓発セミナーの開催及び啓発冊子の作成・配布が決まりました。啓発冊子作成については、意見交換会に麦から代表が参加されています。啓発セミナーは12/16(日)に、冊子の監修を担当される梅永雄二教授と村上由美氏の講演会が、予定されています。他に、(独)日本学生支援機構が実施した障害のある学生の就業力の支援に関する調査結果の抜粋が配布され、発達障害学生の支援と手帳取得者の就労状況をまとめてありました。又、埼玉県内の(社)埼玉県経営者協会会員企業及び特例子会社に、「企業における発達障害者の理解と就労促進に向けた現況調査」のアンケートを行い、「職場で発達障害者に配慮できる環境づくり」としてまとめ、企業向けセミナーの開催と企業・支援機関に配布予定です。埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」からは、就労支援の状況について事例を交えての報告がありました。「麦」からは、機関紙118号とLD学会機関紙に掲載された「発達障害のある人の教育から就業への移行の状況」の抜粋を配布し、高学歴者の増加と就労後の困難さの説明をしました。 記事(S, N)

講演会報告

発達障害のある子を持つ親を支えるために 「ペアレントメンターとは」～発達障害の基礎から～

7/16(月)春日部市民文化会館小ホールにおいて、「ペアレントメンターとは」というテーマで講演会が開催されました。この講演会は、埼玉県家族支援体制整備事業とさいたま市発達障害者家族支援体制整備事業として「ペアレントメンター養成講座」の1コマとして一般公開もされ開催されたものです。当日は、暑い中、多くの方が参加されていました。ご自身のご経験を絡めた、講師の日詰先生のお話はとてもわかりやすく、ペアレントメンターとして何をすべきなのかを改めて考えるよい機会になりました。先生から、ペアレントメンターには①相談にのる(傾聴)②研修会、サポートブックを勧める(発信型)③講演会の裏方をするなどタイプがあることをお聞きし、傾聴だけがペアレントメンターの役割ではないのだと、改めて、ペアレントメンターの役割の広さを感じました。発達障害のある子を持つ家族を支えることが、発達障害のある子の支援につながっていくのだという思いを、一層強くした講演会でした。 記事(H, K)

「<勉強会>発達障害のある人の性教育とパートナーとの出会い」

10/3 (水) 浦和コミュニティセンター 第14集会室 参加人数22名(教育G8名、就労G14名)

普段、気になっていても、人には聞きづらい性教育・・・この難しい課題を、さいたま市「こころの健康センター」保健師の西尾美恵子先生がお話下さいました。先生は要請のあった中学校で、3年生の男女を対象に性教育を行われています。今回は①現代の性環境②二次性徴について「大人も知らない性知識」(中学校での講演内容)③発達障害と性の順に伺いました。とても具体的で踏み込んだ内容で驚きましたが、最近の子供達を取り巻く性環境は、誤った情報が氾濫しており、情報を友達と共有することも少ないので、それを真実と受け止めてしまう危険から守るために、正しい情報を学ぶことが大切だと知りました。発達障害であっても学ぶ内容は同じとの事ですが、知識は獲得しても、親密な関係を結ぶ経験が乏しいために、美人局などの被害にあわないか?問題を抱えた異性でも拒否できず、求められたら尽してしまうのでは?と不安になりました。性教育と同時に「性犯罪」や「パートナーを見極める力」なども学ぶ機会が欲しいと思いました。息子はまだ小6です。子供が知識を正しく理解できる精神年齢に達した時に、本人が西尾先生の講義を受けられたら幸いです。 記事(K)

勉強会後半「発達障害と性」の抜粋

性についての知識を得ることに苦労している性についての知識は暗黙の了解として子どもたちに広がるため、理解できず、自力で研究を重ね、誤った知識、技術を身につけてしまう。

情報は力になる自信と予習が大事。出会い、デートその他さまざまな場面にはルールがある。誰だって不器用に失敗する。ソーシャルスキルや親密さは学んで身につけるもの。練習が大切。

形のない概念想像力が弱く、自分の気持ちが愛情なのか、性欲なのか、説明できない。「愛情がよくわからない」

恋愛感情好きな子と仲良くなる方法が分からない。適度な接し方、交際の順序を具体的に学ぶ必要あり。

結婚本人なりにいろいろ考え、悩んでいる。その悩みは誤解から生じていることも多い。付き合える相手はいないと考え、結婚を否定する子どもも多い。 記事(YY)

教育グループ活動報告

おしゃべり会

9/11 (火) 10時~12時 浦和コミュニティセンター 第13会議室 参加者17名

暑くて長い夏休みも終わり、2学期初のおしゃべり会に参加しました。私自身、麦の行事に参加させていただくのは3回目の新米会員です。今回の「おしゃべり会」前半は、小学生低学年・高学年・中学生のグループごとにテーブルに分かれ、後半は近隣地域の方たちと情報交換を始め、沢山お話することができました。こどもの事で、親として悩んだり落ち込んだりしますが、明るくて楽しい会員の方たちと話し合えるだけで、毎回私自身の気持ちが楽になります。特に、今は小学生なのですが、中学生会員の方の地元の公立中学校への進学するときのアドバイスはとても参考になりました。部活動や小学校との連絡の確認等、親としてのこれから必要な心構えも、いろいろと教えていただきました。次回の「おしゃべり会」にも是非参加したいと思います。今後ともよろしく願いいたします。 記事(S)

動作訓練

9/9(日) 上落合公民館(参加者 3組)

いつも穏やかな渡辺涼先生と、最近の子どもの状態等をお話しし、訓練は始まります。最初緊張している息子も、先生に褒められて気持ちもほぐれ、次第に笑顔に変わります。訓練中は「そうそう、上手だねえ～」と優しく声かけいただき、「頑張ったね」と心地よく今日も終了です。次回は11/11(日)の予定です。 記事(T)

進路例会

(参加者19名)

7/4(水)浦和コミュニティセンターで進路例会が行われ、今回初めて、参加させていただきました。お話ししてくださった方は、公立中学、県立高校、私立高校に通われているお子さんをお持ちの方3名と、お手紙でお話ししてくださった私立高校に通われているお子さんをお持ちの方です。わが子は公立中学に通う中2の男の子です。いよいよ、進路を考えなくてはならなくなり、インターネットで学校を探したりしてはいますが、実際に通われている方のお話を聞いて、とても参考になりました。発達障害に対して、まだまだ理解のない学校や、逆に知識も理解もあり、是非、わが子も通わせたいと思うような学校もありました。息子は呑気で何も考えておらず、私一人で焦っていますが、学校選びは本人が気に入った所、通学に時間がかかるとストレスになるなど、子供の目線で考えていきたいと思えます。企画してくださってありがとうございました。

記事(H・T)

池袋防災館見学・ランチ会

ストローハット 参加：5家族(大人7人子供7人)

7/29(日)、猛暑の中、今年度初めての親子レクレーション、ストローハットが開催されました。

JR池袋駅から徒歩5分の池袋防災館の見学体験です。兄弟を含め子ども7人大人7人5家族の参加でした。文教大学の会沢先生のご紹介で教育学部学校教育課程社会専修1年の片山昂大さんもボランティアとして参加してくれましたので、総勢15名と賑やかになりました。

防災館の館員さんの説明案内を受けながら、様々な防災体験をしました。まずは消火体験、次に煙体験をしました。みんなで避難するのは楽しい部分もあって、特に男の子たちは盛り上がっていました。その次に地震体験をして、館員さんの「いつ関東に地震が来てもおかしくない。備えが必要だ」といった話が印象に残りました。そのあと、地震に関するアニメを見て、防災体験は終了しました。終わったあとも子どもは防犯がテーマのゲームやパズルで遊んだり、大人は防災グッズを物色したりしてあっという間の2時間でした。始まる前は正直心配していました。しかし、和気あいあいとしつつも勉強にもなって、充実した時間を過ごせたかなと思えました。

防災館の後はランチ会となりました。親たちは子どもたちの普段の生活について話したり、ボランティアの片山さんに大学のことを聞いたりして過ごしました。子どもたちは積木をしたり、ゲームをしたり、本を読んだり、過ごし方はそれぞれでしたが、大騒ぎすることもなく過ごすことができました。次回のストローハットは10/21(日)に芋掘り&バーベキューとなっています。ぜひ多くの方の参加をお待ちしています。

(ストローハット役員 K、O)

就労グループ活動報告

おしゃべり会

8/1、さいたま市市民活動サポートセンターに、11名(就労7名、中学2名、見学2名)が集まりました。最初に自己紹介、学校を卒業して就職するまでの道のりはさまざまでした。仕事のモチベーションをいかに維持していくかが今後の課題だそうです。働くまでには、それぞれかなりの時間がかかるようです。自己紹介を聞いただけでも「なるほどねー。」とうなずいてしまいます。みなさんの体験談を聞いていると、昔と違って今はたくさん支援機関があり、選択肢が広がっていることに驚かされます。親が色々な活動に参加し、子どもに「こんなところもあるんだよ。」とアドバイスが出来たらいいですね。是非、教育グループのお母さん方も積極的に参加し、先輩方の話に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

記事(E子)

就労グループ宿泊研修会 9/15～16 伊奈町県民活動総合センター

参加者 15日研修会Ⅰ 子5名・親7名／15日研修会Ⅱ 子4名・親5名／16日調理 子5名親4名

毎年、東松山就業・生活支援センターのご協力を得て、青年たちの自己理解や表現力などを高める助けとなる研修を行っています。学びや経験を積み重ねることが必要な「麦」の青年たちが、再び学ぶことができる場は多くありません。このような貴重な機会にいつも感謝しています。さまざまな個性を持つ発達障害等の青年たちの仲間づくりや相談機関としてZACが新たに障がい者就業総合相談室リレーションシップセンターが東松山の駅前を開設しました。今後どのような関わりができるのか、話し合いを深めたいところです。

15日研修会Ⅰ「エコマップを作ろう」 参加した親の感想

9/15(土)～16(日)に就労グループ宿泊研修会(場所:埼玉県県民活動総合センター)が開催されました。指導して下さった方は、東松山障害者就業・生活支援センターのセンター長である若尾さん、就業総合相談室リレーションシップセンターの弘瀬さん、鈴木さんです。エコマップ(自分をめぐる関係図)を各自が作り、グループ内で発表しました。エコマップ作りを通じて今の人間関係を見つめ、自分が相談できる人は誰なのかといったことを確認しました。書くことで、自分の人間関係を再認識することができました。参加した子どもたちも一生懸命作っていました。今回の研修を振り返ってみますと障害をもつ子の就労に向けては、目先のことだけに目を奪われずに、自分の人間関係の再認識を含む自分たちの状況把握も重要なことかなと感じました。参加させていただき誠にありがとうございました。 記事(M.S)

15日研修Ⅱ「犯罪防止、被害防止とローンの話」

「犯罪(してはいけないこと)」「犯罪をおこしたら」「誤解を招く行動」を経験談まで話が広がりました。後半は「ローンでお金を借りたら」。銀行の預金金利とローンの金利の表を見ながら、「ローンのCMは多いけれど気軽にお金は借りてはいけない。お金を借りたら利子をつけて返さなくてはならない。」使い道はそれぞれですが、給料を計画的に使う、自立のための次の課題です。

16日9時～14時 調理と昼食 調理に参加した青年の感想

僕は、普段料理はしないのですが、母さん達の助言により男性達だけで上手くできた事は、思っても居ませんでした。沢山の助言・指導をありがとうございました。料理の材料が多過ぎた為、少し残ってしまいましたが、次回作る時は事前に作る分量を考えるべきでした。料理・道具の整理等、それぞれ役割分担しやりましたが、不慣れの為、時間が大幅に掛った事が反省すべき事です。楽しく出来たので、良かったと思います。また機会があれば、やりたいと思うので、その時は宜しくお願い致します。 記事(Kくん)

第44回さいたま障害者就業サポート研究会定例会

～8/24(金)北与野埼玉トヨペット本社～

「今後の障害者雇用対策の在り方に関する3つの研究会について」 厚労省障害者雇用対策課長 山田雅彦氏
3つの研究会とは、「障害者雇用促進制度における障害者の範囲等の在り方に関する研究会」、「労働・雇用分野における障害者権利条約への対応の在り方に関する研究会」、「地域の就労支援の在り方に関する研究会」。障害者の就労は困難であるが、障害者本人だけでなく、他の人を無視できない。個人同士で、支援するのは難しい。「障害者差別」では問題は解決しない。印象に残った言葉は、「今は、不景気で、健常の人も仕事がないのだから、障害のある人も就職できないのも当たり前、という話を聞きますが、転職をする際のことを考えてください。障害のある人が次の仕事をさがすのは、比較できないほど難しいのです。」であった。 記事(Y. Y)

埼玉県障害者ワークフェア 2012

～9月14日(金)浦和コミュニティセンター～

特別支援学校・障害者団体等の製品の展示販売、障害者雇用事業所、就労支援センターの紹介など、回りきれないほど、さまざまなブースがありました。午後に行われた雇用サポートセミナーでは、「精神障害者雇用の取組」として(株)ITワークス社、「障害者とともに10年の歩み」として(株)サイゼリアの講演がありました。

(株)ITワークス社は、障害のある人の職業訓練の場と雇用した障害のある人をネットワークエンジニアとして派遣しています。精神障害のある人は、服薬や通院他の影響で短時間労働からという希望が多いようです。その実情に理解があることがたいへん、ありがたいと思いました。セミナー後半の(株)サイゼリアでは、知的障害の人の雇用を手探りですすめた、企業の努力と、熱意がわかる講演でした。準社員、定時社員、正社員と雇用条件が明確にされているのも働く人にとって安心できることだと思いました。

記事(Y, Y)

都立永福学園見学会

9/13(木) 都立永福学園とNPO法人GreenWork21との共催の学校見学会と研究会に参加してきました。

東京都立永福学園就業技術科は、平成19年開校の知的障害の軽い生徒のための職業学科で、生徒全員の企業就労を目指している学校です。高等部3学年300名30学級(1学年100名10学級)で都内全域から生徒の募集をしています。始めに学校の概要の説明を受けた後、2グループに分かれて校内をめぐり授業の様子を見学しました。生徒は、皆明るくはきはきとしていて、私たち見学者にも、きちんと挨拶をしてくれました。企業から講師派遣がされていて、1年次から企業から求められている人材の育成に取り組んでいると強く感じました。校内は、ビルクリーニングコースの生徒たちが、実践を兼ねクリーニングしているとのことで、とてもきれいでした。クリーニングに使う道具はどれも手入れが行き届いていて、特に6年前から使用しているモップがにおいもなく、使用されているのに感心しました。見学後は、「永福学園における職業教育と就業促進の展開」というテーマで各コースの担当主任教員から説明がありました。初めて見学し、さすが100%企業就労を目指している学校と感心する事ばかりでした。私たちの住む埼玉県にもさいたま桜高等学園、羽生ふじ高等学園の2校の同系の学校がありますが進学を希望する発達障害のある子たちが、皆このような学校に入学できるよう、更に学校が増設されることを望みます。

記事(H, K)

地域活動報告

大宮発送&おしゃべり会

7/18(水) ふれあい福祉センター 参加人数 発送8人(おしゃべり会7人)、見学3人

学校の夏休みを間近に控えた7/18、機関紙の発送作業がありました。印刷が終了した機関紙等の各ページを順番に揃えた後、会員ごとに封入するのですが、最終確認を役員の方にさせていただきながら作業させていただきました。お昼頃、見学の方が次々にいらっしやいました。役員の方が手分けされ、お一人ずつお話をはじめられました。発送作業は終了したので、残った4名で、昼食およびおしゃべり会を先にはじめさせていただきました。娘が今年中学生になり、小学校の時と違う生活に親として戸惑っていたので、私にとっては、高校生などの年上のお子さんのお話は興味深いものでした。また、就職するにあたっての手帳の話など、数年後に当事者になった時、親としてあわてないように少しずつ勉強が必要だと感じました。見学の方や役員の方もお話に合流され、一段と盛り上がったのですが、私は帰宅の時間となり、お先に失礼させていただきました。

発送作業に参加させていただくと、改めて機関紙が係の方のご尽力で私の手元に来ているのだなと思います。また、おしゃべり会では違う年代のお子さんのお話を伺う機会となり、同年代の良さはまた違う良さを感じます。皆様、本当にありがとうございました。

記事(S)

さいたま市発達障害者支援体制整備検討委員会

7/19(木)さいたま市発達障害者支援体制整備検討委員会が行われ、「麦」役員が委員として出席いたしました。年度が変わったので、まず新たに委嘱された委員から、自己紹介と発達障害の現状報告があり、その後出席委員で支援体制や課題などを議論いたしました。思春期精神保健相談事業においては、二次障害や医療が必要な事例など、相談が複雑化しており、そのため困難事例では、他機関との相談の他に、専門家の派遣を行なっているそうです。さいたま市発達障害者支援センターの相談件数は、増加を続けています。複雑化した問題を抱える事例や、家族全体に問題のある事例が多くなっており、関係機関との連携の重要性が高まっています。そこで、発達障害者支援連絡協議会などで、支援手法の検証や困難事例の検討を行なっていますが、今後の支援体制の強化が、大きな課題となりました。詳細は、役員までお問い合わせください。 記事(H, Y)

さいたま市障害者政策委員会

さいたま市障害者政策委員会が7/17(火)に行われ、「麦」役員が委員として出席いたしました。私は、①療育機関を充足させること ②通常級に在籍する障害のある児童生徒のために、特別支援教育を管轄する部署と通常級を管轄する部署が連携して支援を行うこと・・・等を発言いたしました。他の委員からも、自立支援・医療・就労・成年後見・移動支援など、多岐にわたる提言がございました。また、「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」について説明があり、次回の委員会で法律施行に伴う条例制定が議論される予定です。当日の会議録と資料は、さいたま市ホームページでご確認ください。 記事(H, Y)

さいたま市立大成中学校研修会

8/22(水)さいたま市立大成中学校の研修会に、「麦」役員が講師をして招かれました。大成中学校は、ここ数年発達障害の基礎研修を行っていたので、私は家庭と上手にお付き合いする方法を中心にお話させていただきました。まず、発達障害という言葉でたじろがないように、「気がかりな生徒」から導入して、その中に発達障害と思われる子どもが存在すること、その後「保護者の心理」「家庭との連携」「困難事例」「支援の工夫」「思春期の課題」等をご説明いたしました。学校では、子どもの問題に気がついたとき、保護者にどのように伝えるかを悩むようです。そこで私から、先生が保護者に問題を説明するプロセスをお伝えしました。また、今回は中学校からのご依頼だったので、思春期問題を取り入れ、二次障害や性の問題まで踏み込みました。どんなに素晴らしい先生や母親でも、うまくいかない時があります。だからこそ、1人で頑張らず周囲の人の力を借りましょう。手抜きではなく、信頼して任せる勇気も大切ですから。大成中学校のみなさま、当日はお世話になり、ありがとうございました。みなさまのご活躍をお祈りいたします。 記事(H, Y)

平成24年度第1回越谷市障害者施策推進協議会

9/26、越谷市障害者施策推進協議会が行われ、「麦」役員が公募委員として参加しました。会長に埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉学科教授の朝日雅也氏が選出されました。越谷市は、平成27年度に中核都市への移行を目指します。中核都市移行で、何が出来るようになり障害者施策がどう変化するのか、勉強していきたいと思っております。 記事(S, N)